

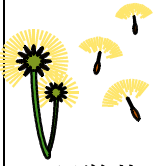


与論小だより

学校教育目標：校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成



ブログはこちらから

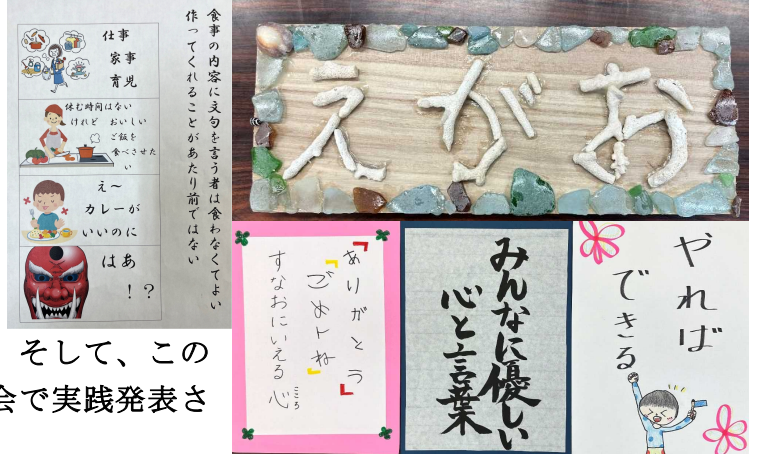


すばらしいPTA一家庭一家訓への取組

校長 岩元 輝美

2学期終業式の日、各家庭に冬休みの宿題(?)がPTA会長名で配付されました。PTA運営基本方針の一つとして掲げられた「一家庭一家訓」の取組と「一家庭一家訓作品コンクール」の実施についての案内です。

冬休みが終わると、たくさんの家訓・家訓作品が集まりました。私も集まった家訓や作品を見せていただきました。半数近くの家庭から提出されており、それぞれの家訓に込められたそれぞれの家庭の想い(家庭像)を想像することでした。改めて与論小学校PTAの素晴らしさに感銘を覚えました。そして、この取組は先日開催された与論町PTA研究大会で実践発表され、大きな称賛をいただきました。



さて、明治という激動の時代に活躍され、一万円札に肖像画が描かれている福沢諭吉の著書「教育ノ事」に、「一家は習慣の学校なり、父母は習慣の教師なり」という言葉があります。また、「この習慣の学校は教授の学校よりも更に有力にして、実行を奏すること極めて切実なるものなり」「教うるより習いという諺があり。けだし習慣の力は教授の力よりも強大である。」とも書かれています。つまり、家庭で学ぶことが、学校で学ぶことよりも大事であり、子供たちがよい生活習慣を身に付けるのは家庭であって、そのモデルは親であるということです。

すべての基本は家庭から始まります。家庭内での基本的な生活、礼儀、仕事(役割)などが習慣付ききちんとできている子は、当然、外でも、大きくなっても、それらがきちんとできるということです。子供が最初に影響を受ける存在は、親です。家庭の関わり方で、子供の将来が変わってくると言っても過言ではありません。親が子供の前でどのような接し方をするかが重要です。「子供は親の背中を見て育つ」と言われるように、子供は、親の考えている以上に親の言動をしっかりと見えています。そして、親の影響で価値観や人生観が決まってくると言われています。

また、時代が変わっても、変えてはならないこともあります。「進んであいさつをする」「ていねいな言葉遣いをする」「自分が言われて(されて)嫌なことは言わない(しない)」などのあいさつや言葉遣い、人への思いやり等がそれにあたり、それらの基本的な考えを子供は親から学びます。そういった意味で、一年の始まりに家族で家訓を考えたり見直したりしながら、家庭での習慣や言動を振り返る絶好の機会となったと思います。

そして学校は、家庭の次に子供たちが出会う社会です。その社会では、教職員がよい社会人としてのモデルとなるわけですから、上述した親の役割を私たち教職員がしっかりと果たさなければならぬと感じています。そして、家庭と学校がしっかりとスクラムを組むことで、子供たちに豊かな心を育むことができると考えます。

本年度もあと1か月となってきました。引き続き、学校と家庭・地域がベクトルを揃え、「未来に挑む子供の育成」に取り組んでまいりましょう。よろしくお祈りします。



黒糖づくり体験

5年生は毎年ゆんぬ学(海洋教育科)の一環としてサトウキビを育てています。今年もそのサトウキビを刈り取って与論民俗村で、黒糖づくり体験を行いました。



始めに、砂糖車(サタグルマ)を使ってキビをしぼっていきます。昔は牛がひいていたそうですが、この日は全て人力です。1時間ほどかけて何とかキビをしぼることができました。集められたキビ汁は竈でじっくりと煮詰めていきます。子供たちは、煮詰めている途中のキビ汁を何回か試飲し、少しずつ黒糖に変わっていく様子を確認していました。

5時間ほど煮詰めて、ようやく黒糖が完成しました。出来立ての黒糖は、自分たちで初めから作ったこともあって、いつも食べているものよりも美味しいと、みんな喜んで食べていました。

キャリア教育(5・6年生ジョブフェス)

2月15日(木)には、与論島内で仕事をされている方9名をお招きして、農業、観光、公務員などのいろいろな仕事について話を聞く「ジョブフェス」を開催しました。



子供たちは自分の興味のある職業の方のところに分かれて、それぞれの仕事の内容や、その仕事の未来の姿について詳しくお話を聞くことができました。

いろいろな職業の話を聞く中で、与論だからこその仕事や、与論にいてもできる仕事、それぞれの仕事のやりがい、大変さなど学ぶことができました。

講師の方には、今のうちに付けておきたい力はどんな力なのかについても話していただき、子供たちにとって将来について考える良い機会になりました。

健康フェスタ

2月15日(木)健康フェスタを実施しました。前半は保健委員会による、目の健康についての劇の発表でした。勉強をするときの姿勢や、家に帰ってから注意して欲しいことなど、低学年に分かりやすく発表してくれました。与論小でも、視力の低下が気になる児童が増えてきているので、子供たち自ら気を付けられるようになってほしいと思います。



後半は、久野先生によるエアロビクス教室でした。軽快な音楽に合わせて全員で体を動かしました。難しい動きもありましたが、みんなで掛け声もかけながら踊ることができました。最後はゆっくりと柔軟運動でしめくりました。体を動かすことが苦手な子供も楽しく体を動かすことができました。

アスリート派遣事業

2月19日(月)、リオデジャネイロオリンピックに陸上三段跳びに出場された長谷川大悟選手に、3・4年生の体育の授業をしていただきました。

講演では、「継続すること、諦めないことが大切」「挑戦することに才能や時期は関係ない」ということを話していただきました。また、子供たちの前で実際に三段跳びのデモンストレーションをしてくださいました。子供たちはたった3歩で跳ぶ距離と、そのジャンプの高さに驚いていました。



講演の後は、一緒に体を動かして、ゲームをしたり、走るときの体の使い方を学んだりしました。最後の質問コーナーでは、子供たちからのたくさんの質問に丁寧に答えていただき、とても充実した時間を過ごすことができました。

3月の行事予定

- 1日(金) 思い出遠足
- 5日(火) 新1年生との交流会
- 15日(金) 卒業式予行練習
- 22日(金) 第110回卒業式

- 25日(月) 修了式・離任式
- 26日(火) PTA送別会

March

